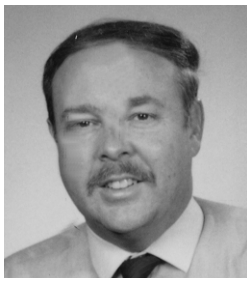
住空間の利用

Robert A. Hayzer
Kearny High School
New Jersey, U.S.A.



学習者年齢：　14〜17才
日本語レベル：　初級〜中級
文化面の目的：　日本人の空間の多面的な利用法について知る
日米の住空間を比較する
学習する日本語：住居に関連する語句
“マンション，しょうじ，ふすま”

学習目標

人間にとって普遍的なテーマである住空間について、日米間の比較をし、身近な問題として考える。日本の都会に住む人々が、限られた空間を多目的に利用していることを知るだけではなく、生徒たち自身が教室や自宅の広さを測り、教室の利用方法について考えたり、所有物や家賃について資料を調べるなどの体験的な学習を通じて、その理解を深める。

授業の進め方

＜予習＞
自宅のサイズを測り、個人のスペース、共有スペース、使っていない部分、家賃を調べてくる。

＜用意する物＞
・日本の一戸建やマンションの写真
・住宅図面
・日米双方の不動産広告

＜進行方法＞
1. 教室の中で狭くてごみごみしている場所について全員で話し合い、その有効利用を考える。
2. 日本人は一般的に米国人より狭い住宅に住んでおり、部屋を多目的に利用していることを説明する。また、日本の人口が都市部に集中していることを学び、そのことが住宅の値段や新築マンションの広さ、家賃に与える影響を考える。
3. 部屋の使い方を評価する基準として、融通性や昼夜の使い分けについて指摘する。部屋の多目的利用について学んだ後、生徒たちはペアを組み、日本の住宅図面を使いながら、昼間と夜の部屋の使い方の違いを理解する。
4. 地価が高いことについて、データをあげながら説明する。教室の中で畳6畳、1坪、30坪の広さをそれぞれ測ってみる。
5. 生徒たちが日本の3LDKのアパートに引っ越すことを想定し、家族が必要とする物と米国に置いていかなければならない物を選別する。家の広さが限られているために、必要な物と不必要な物を慎重に選ぶ必要がある。

外国語学習と文化理解

日本語教育の中で日本文化を取り上げることにより、生徒たちによい影響が与えられることを願っている。米国の若者の多くは、人種問題などで心がすさんでいる。日本社会にも問題が全くないわけではないが、人間関係などの面で米国が日本から学ぶことは多い。

日本について学ぶのに、海を越える必要も、日本の礼儀作法に関する本を読む必要もない。私は常々、日本の大使はワシントンだけにいるのではない、と生徒たちに言っている。若者が身の回りの日本語教師や日本人に目を向け、少しでも日本語を学んでくれるなら、日本人の繊細さがわかるようになるはずである。

©1996 THE JAPAN FORUM